

大学理工学部の学部長・兼平政則(山崎銀之丞)が研究室においてラテクスアレルギーで死亡したが肝心のラテクスは発見されない。

京都府警の科学捜査研究所(科捜研)法医研究員の榎マリ

コ(沢口)は捜査線上に研究室の出入り口付近に奥井氏(以前兼平教授の研究員「奥居秀俊(福士誠治)」)が来ていることを知る。しかし、兼平教授の呼び出しで訪問したのであるが面会はできていない。土門刑事(内藤剛志)は、兼平に脅迫メールが多数、届いていたことを突き止める。

まり子たちは不審に思い、奥井に会い靴やケースの鑑定の許可を得る。その結果、奥井のケースから消毒液の成分を抽出する。その消毒液は三浦先生「准教授・三浦葵(鳴海唯)」の研究室からのものであり類似のものであった。奥井は三浦先生の研究者バイヤーとなってその研究室に出入りしていたものと思われた。

まり子は三浦先生がよく「まむらファーム」というぶどう園に出入りしていること、クレオパトラという人気ぶどう品種があることを知り、まむらファームを訪れる。

管理人はてっきりクレオパトラの苗木が盗難にあっており、その件での捜査だと思ったが、別の要件だと気づく。

まり子は、クレオパトラの品種でブドウの色合いが異なるブドウ樹が区分け整理されていることを不思議に思い管理人に質問する。

管理人から人気ぶどうのクレオパトラが一部の農薬に弱く欠点があるため三浦先生(兼平教授「クレオパトラは今に日本を代表する品種となる」)の指示でクレオパトラの改良研究にあたる。



の研究でペプチド溶液に農薬に強いDNAが混合されている植物のワクチンの使用実験をしていることを知る。効果は一時的でしばらくすると元の色合いに戻るという返答を得る。

科捜研は三浦先生の倉庫室からペプチド溶液が一瓶盗難にあっていることに気づき犯人(橋本研究員)がペプチド溶液にラテクスアレルギーを引き起こすDNAを発見して混ぜたことを突きとめる。

橋本研究員は安い賃料で兼平教授にこき使われていることに不満を持ちクレオパトラの苗木を海外に高い値段で販売していた。その場面を兼平教



授に知られ、研究所を追い出されることになっていた。そのことを恨みに持つ橋本研究員はラテクスを作り出すDNAを発見し、それをペプチド溶液と混合した液体を作り出した。兼平教授が大切にしている盆栽に降りかけて(一定の時間が経過すればラテクス成分はなくなる。)ラテクス(天然ゴム)アレルギー症状のでる完全犯罪を計画する。